

**城南中学校区学校再編整備方針及び
統合実施計画(案)**

第1章 方針

1 基本方針

児童生徒数が減少する中、城南中学校区の小中学校を一体的に再編整備し、児童生徒の交流や教育環境の充実を図り、小中一貫教育のさらなる推進を図ります。

2 再編整備方針

- (1) 小学校校舎の老朽化対策及び折原小学校の複式学級の解消のため、鉢形小学校との統合小学校を新設します。
- (2) 城南中学校の長寿命化工事を実施し、有効活用します。
- (3) 円滑な学校統合を推進するため、保護者、地域の代表者、学校関係者を含めた「統合準備委員会」（以下「委員会」）を設置し、必要な事項を協議します。

第2章 統合実施計画

1 統合対象校、スケジュール等

(1) 統合対象校

この方針中の統合対象校は、折原小学校と鉢形小学校とします。

(2) 統合小学校の位置

統合後の小学校の位置は、城南中学校敷地内とします。

(3) スケジュール

	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
統合関係					
施設整備					
跡地利用					

※1 「基本設計」 ・建物の構造、配置、間取り、外観、面積、概算工事費の設計図書の作成
 ・通学路、通学方法に関する基本的な考え方のまとめ 等を実施

※2 「実施設計」 ・基本設計に基づき、建物内外の詳細な設計図書の作成、工事費の積算 等を実施

(4) 就学区域

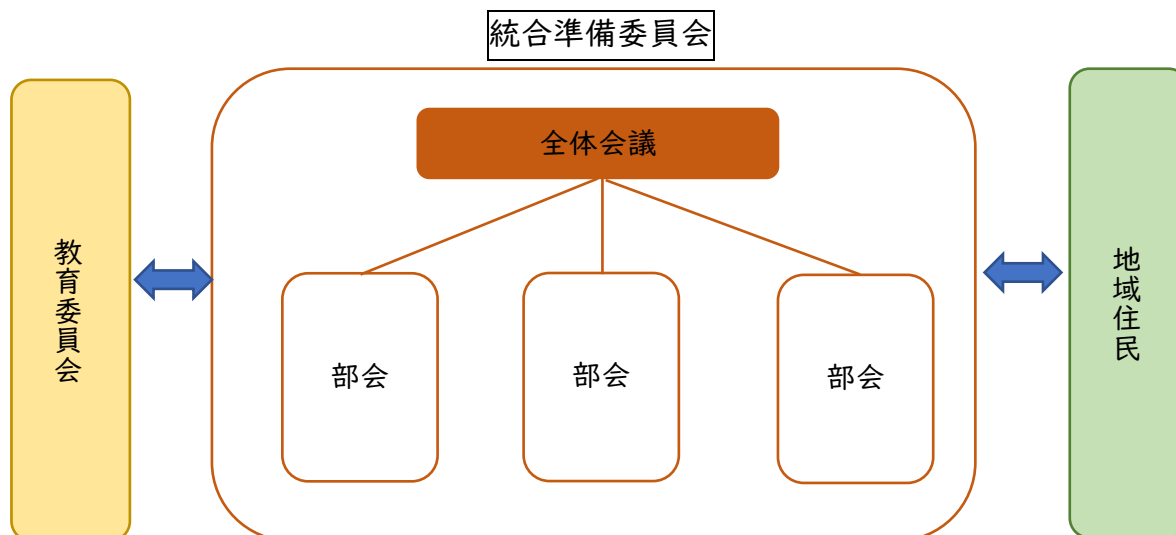
就学区域は、現折原小学校区と現鉢形小学校区を合わせた区域とします。

2 委員会及び部会の設置

統合小学校を円滑に開校するため、委員会を設置します。

委員会の中で統合に係る諸課題の細部について調査、検討するため、委員会の下部組織として部会を設置します。

また、委員会での重要検討事項は、地域住民と情報共有を図り、十分な理解と協力を得ながら進めていきます。



(1) 委員会

委員会の委員は、①保護者を代表する者、②学校の職員を代表する者、③区長会を代表する者、④その他教育委員会が適当と認める者で構成します。

委員会の全体会議において、各部会で検討した事項を協議します。

委員会は、協議結果について、教育委員会へ報告するものとします。また、その報告内容の周知を図ります。

(2) 部会

部会は、所掌事務ごとに必要数を設置し、検討結果を全体会議に上程します。

部会名	所掌事務
(仮)総務部会	・校名の選定について ・校歌の策定について ・通学路の安全対策について 等
(仮)教育部会	・教育課程について ・校務分掌について ・備品の整理・移管計画について 等
(仮)PTA部会	・PTAの組織編成について ・PTAの運営計画について 等

3 統合にあたって配慮すべき事項

(1) 学校生活における不安への対応について

- ① 学校が統合する場合、児童は「新しい環境になじめるか」、「新しい友人関係が築けるか」など様々な不安を抱くことが考えられます。統合後の不安や動揺をできる限り軽減できるよう、児童にも分かりやすく統合の目的や計画を伝えます。また、さわやか相談員やスクールカウンセラーの活用を図るとともに、準備期間を設け、児童、教員、保護者間の交流活動を実施します。
- ② 特別支援学級については、統合小学校に引き続き設置するとともに、設備面を含めた教育環境においても十分配慮することとします。
- ③ 統合小学校において、円滑に学校生活がスタートできるよう、統合前から在籍している教員を統合後の学校にも一定数配置することに努めます。

(2) 通学環境の整備について

- ① 通学路の指定にあたっては、現状確認を行い、児童の安全性が確保できる通学路を選択していきます。また、通学路の安全確保については、特段の配慮が必要となることから、地域の要望を聞く中で、歩道、ガードレール、防犯灯（道路照明）などの整備について、関係課や関係機関と調整しながら進め、児童の安全安心な登下校にも十分配慮していきます。
- ② 通学距離が延びることで、児童が体力的にも精神的にも疲労し、学校生活における学習意欲や様々な活動に影響を与えないように遠距離通学については、スクールバス等の交通手段について検討していきます。
- ③ スクールバスを導入する際は、児童の乗車時間が必要以上に長くないよう、また、学年毎に異なる下校時刻やクラブ活動・部活動、学校行事への対応や早朝登校の回避など柔軟な対応が図れるよう、学校の実情に合わせた運行経路や運行計画等を、委員会で十分検討していきます。

(3) 学校施設整備について

小学生と中学生が共用する施設については、体格差を考慮し、小学生の利用に配慮した整備を行います。

(4) 閉校後の学校施設・跡地利用について

学校施設は、地域住民にとっての身近な公共施設であり、避難場所として位置付けられていることもあるため、跡地の利用については、地域の皆様と十分協議しながら検討していきます。

(5) その他

児童の放課後の居場所を確保するための放課後児童クラブ施設についても、小学校の統合に合わせて検討していきます。

資料編

Ⅰ 方針決定の経緯

令和4年度	城南中学校区小中学校集約化・長寿命化検討事業として、現状分析や課題に対する対応策等の調査資料をまとめる。
令和5年3月	上記、調査資料に基づき、城南中学校区の住民説明会を開催
令和5年9月	第1回ワークショップ会議（概要説明、模擬会議 等）
令和5年10月	第2回ワークショップ会議（課題の共有、メリット・デメリットの議論・検討 等）
令和5年10月～11月	城南中学校区の児童、生徒に対するアンケート調査を実施
令和5年11月	第3回ワークショップ会議（教育の基本理念の説明、質疑応答 等）
令和5年12月	第4回ワークショップ会議（最終意見（案）の検討）
令和6年1月	第5回ワークショップ会議（意見発表（パブリック・ミーティング））
令和6年2月	ワークショップ会議の結果を議会へ報告
令和6年3月	町内の学校長からの意見聴取
令和6年3月～4月	パブリック・コメント制度による意見募集
令和6年3月	町の方針（素案）を議会に説明
令和6年4月	議会からの意見・要望
令和6年4月	町の方針案の決定
令和6年5月	方針案に係る地元説明会の開催
令和6年5月	（予定） 方針決定
令和6年6月	（予定） 議会へ説明

2 ワークショップ会議の最終意見

令和5年9月から令和6年1月にかけて、城南中学校区における将来の学校施設の在り方について、地域の皆様と検討するため、ワークショップ形式による会議で、話し合いを行いました。

会議は、城南中学校区の区長、民生児童委員、PTAから選出された全36名をメンバーとして、全5回にわたり、活発な議論をしていただきました。

最終的には、下記の4案に基づき、班(全6班)ごとに意見をまとめていただき、提案いただきました。

案1

既存小学校施設を改修して利用を続ける

現在の、折原小学校、鉢形小学校、城南中学校の3校体制は変えず、老朽化した小学校2校について大規模な改修工事を実施する案です。

案2

2つの小学校を集約し、新校舎を建設する

現在の、折原小学校、鉢形小学校を集約し、城南中学校の敷地内に新校舎を建設する案です。

案3

既存小学校1校を改修し、集約する

折原小学校か鉢形小学校どちらか1校を大規模改修し、集約化する案です。

案4

その他



城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ

A班

キャッチフレーズ

INSPIRE the CHILDREN

選んだ“案”

案 4 (その他) 城南中学校に両小学校を集約
ただし 小学校1～6年生と中学生校舎完全別



【選定理由】

- ・複式学級の解消
- ・新校舎にすることで2校とも同じスタートラインに立てる
- ・リーダーシップや自主性を養う機会が確保できる



課題点

- ・通学距離
- ・小学校と中学生の発達の違い（身体・心）がある
- ・9年間一緒になると、人間関係のリセットが難しい
- ・グラウンドなど共用だと低学年が委縮してしまう



要望事項

- ・スクールバス
- ・小学生の成長と安全面を確保するため、校舎、グラウンド、体育館、プールなども完全に別にする（区別する）
- ・敷地を別に確保する
- ・学校統合サポーター等の配置





城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ

B班

キャッチフレーズ

素晴らしい教育環境の為に

選んだ“案”

案 2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する



【選定理由】

- ・児童数減少による為
- ・コストが低くおさえられる
- ・一つの小学校が残って、一つの小学校がなくなるのであれば、新校舎（第3の場所）を建てて集約化がベターである



課題点

- ・通学について（時間、距離）スクールバス利用等
- ・中学生、小学生（低学年）は対格差がある為、小学生が過ごしやすいように配慮する



要望事項

- ・学校だけにまかせるのではなく、地域の人達も一緒に子ども達を守る
- ・通学路（4 km）にこだわるのではなく、遠い場所に住んでいる子どもはスクールバス利用を可にしてほしい
- ・避難所を確保
- ・校歌はどうするのか？





城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ

C班

キャッチフレーズ

出来る！友達100人

～楽しい未来を目指して～

選んだ“案”

案2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する



【選定理由】

- ・工事費安価
- ・生徒が増えれば学校が活性化する
- ・仲間作りがし易い。一生の友達ができ易い
- ・新しい校舎で気持一新
- ・経費が安くすむ
- ・先生もやる気がでると思う



課題点

- ・通学路の整備
- ・通学が遠くなる子が出てくる
- ・気後れする子供が出てくる可能性がある
- ・新校舎をどうするか



要望事項

- ・学童保育を併設してもらいたい
- ・折原地区に子供を増やす方法を考えて欲しい
- ・移住者を増やす新しい町作りを考えて欲しい
- ・寄居町に魅力を感じるようにして欲しい
- ・上級生と下級生のつながりを作って欲しい
- ・スクールバスを希望
- ・町も一緒にコミュニケーションをとれる仕組み作りを考えて欲しい





城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ

D班

キャッチフレーズ

子供達の魅力ある学校作り

選んだ“案”

案 2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する



【選定理由】

- ・コスト削減
- ・いじめの減少
- ・児童数減少への対応（複式学級の解消）



課題点

- ・通学時間と距離の増加
- ・放課後、休日の遊び場所がなくなる
（スポーツ少年団の活動場所がなくなる）
- ・避難所がなくなる



要望事項

- ・遊び場所の確保・通学手段の確保（スクールバス等）
- ・廃校の利活用 ・避難場所の確保
- ・城南中学校の魅力作り





城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ

E班

キャッチフレーズ

教育活動の充実を目指して

～小中一貫教育を通じて～

選んだ“案”

案 2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する



【選定理由】

- ・社会性の充実（児童が集団の中で多様な考えや協力ができる。複式学級の解消）
- ・校舎の老朽化、災害時の安全面の問題
- ・地域の共有と交流



課題点

- ・通学距離の問題
- ・小中一貫の教育課程の編成



要望事項

- ・スクールバス
- ・既存施設を残し、新たな施設（テニスコート）
- ・少人数教室の充実
- ・小中学生が同じ場で過ごす事への配慮（グラウンド、プール、トイレ、体育館 etc.）
- ・地域の見守り





城南中学校区小中学校
長寿命化・集約化検討ワークショップ

F班

キャッチフレーズ

笑顔あふれる みんなでいっしょに 多様な学び

選んだ“案”

案 2 2つの小学校を集約し、新校舎を建設する



【選定理由】

- ・限られた予算で継続的な管理を行える
- ・多様な学びの場が確保できる（少子化対策）
- ・城南地区内の平等性が図られる



課題点

- ・通学距離が遠くなる児童がでてくる
- ・避難場所がなくなってしまう
- ・人数が多くなることによる教育の質の低下

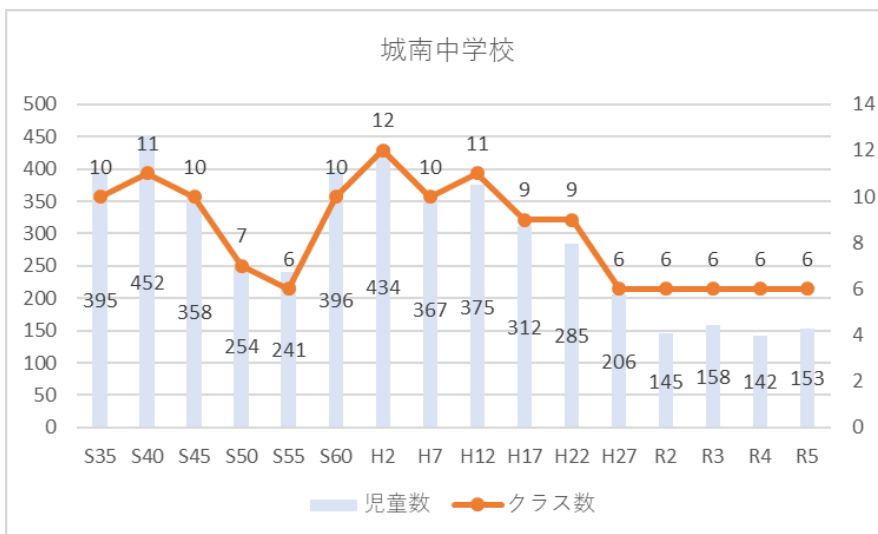
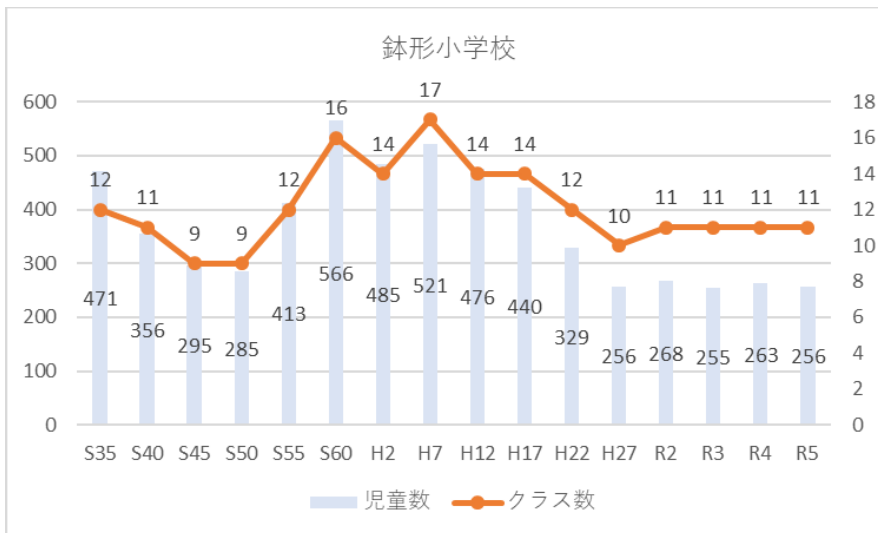
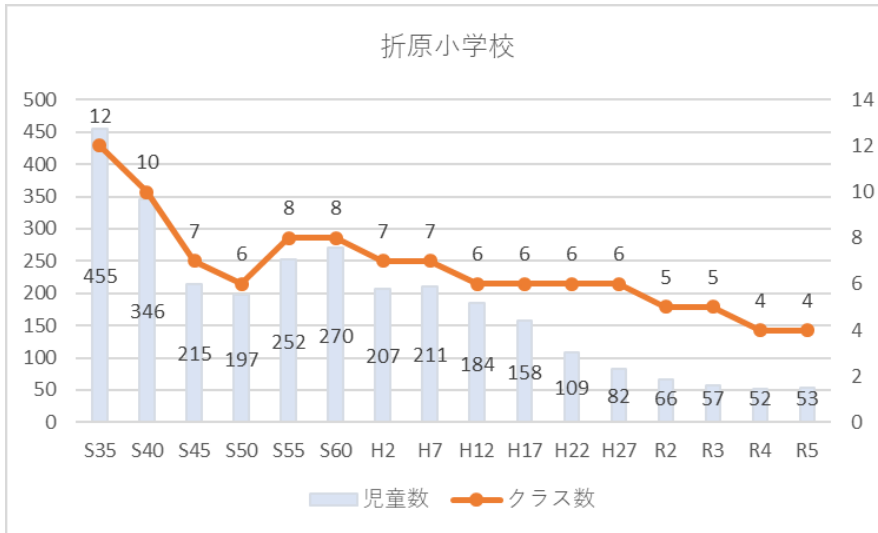


要望事項

- ・スクールバス等通学の足の確保
- ・避難所の確保
- ・校庭や体育館などの施設使用時の安全対策
- ・きめ細かな教育、見守りの強化



3 児童数とクラス数の推移



4 学校施設の現況

折原小学校

名称	建築年月	構造	面積
教室棟①	昭和47年 3月	鉄筋コンクリート造	1,603㎡
便所	昭和49年 3月	鉄骨その他造	18㎡
屋内運動場	昭和49年 3月	鉄骨その他造	648㎡
教室棟②	昭和56年 3月	鉄筋コンクリート造	731㎡
倉庫①	昭和62年 3月	鉄骨その他造	27㎡
倉庫②	平成 4年 3月	鉄骨その他造	20㎡

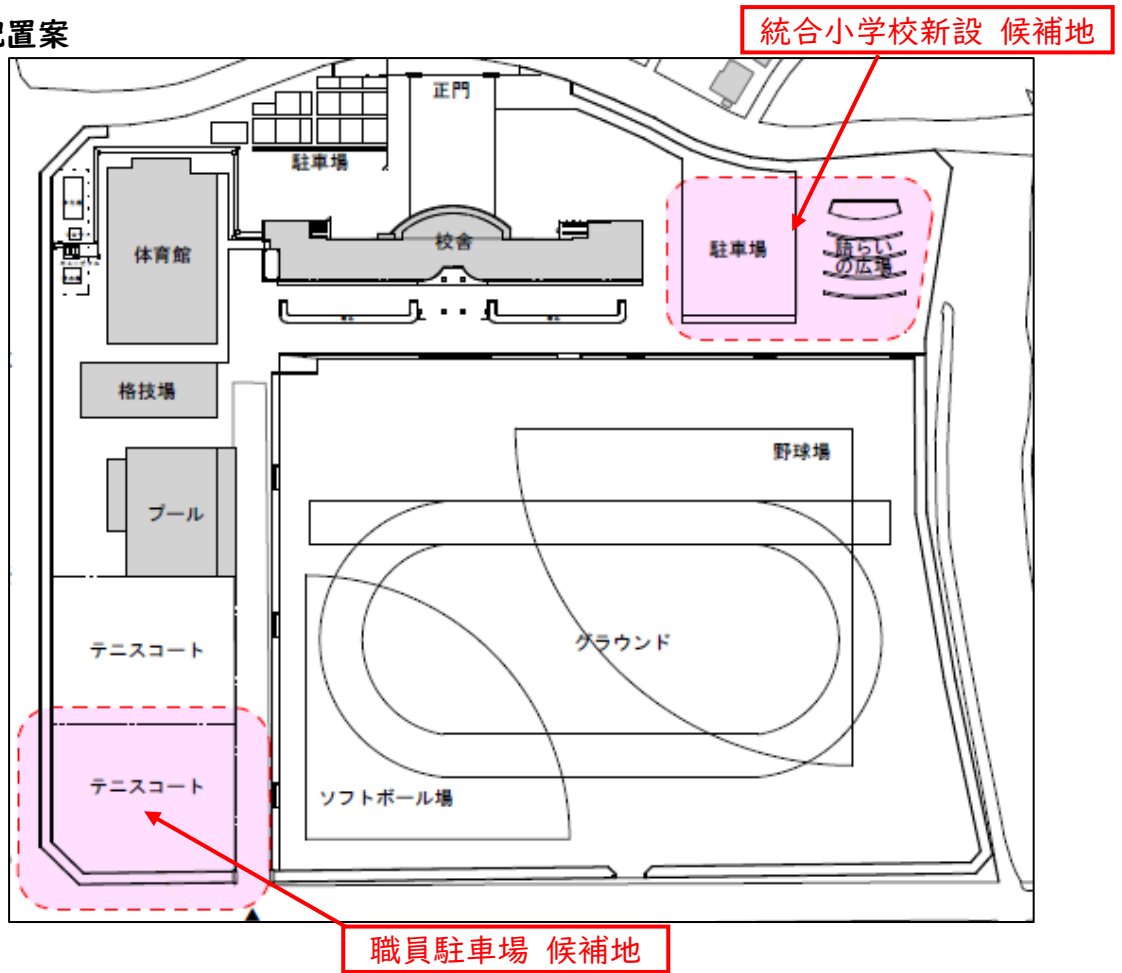
鉢形小学校

名称	建築年月	構造	面積
教室棟①	昭和46年 3月	鉄筋コンクリート造	988㎡
屋内運動場	昭和48年 3月	鉄骨その他造	657㎡
便所	昭和53年 2月	鉄筋コンクリート造	25㎡
教室棟②	昭和57年 3月	鉄筋コンクリート造	2,034㎡
資料室	平成 5年 3月	鉄骨その他造	65㎡
プール付属室	平成15年 3月	鉄筋コンクリート造	103㎡
教室棟③	昭和53年 2月	鉄筋コンクリート造	333㎡
教室棟④	昭和60年12月	鉄筋コンクリート造	481㎡

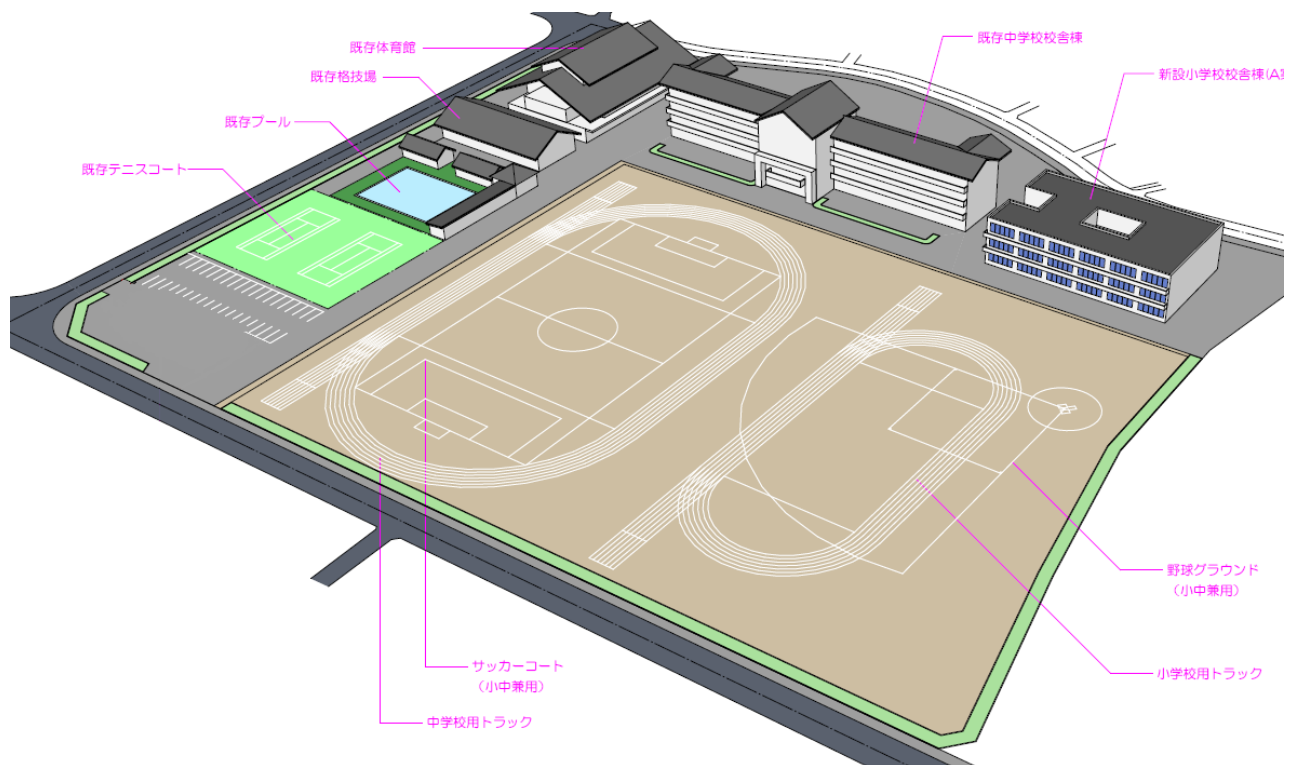
城南中学校

名称	建築年月	構造	面積
教室棟	平成 6年 1月	鉄筋コンクリート造	4,708㎡
屋内運動場	平成 6年 3月	鉄骨その他造	1,184㎡
クラブハウス	平成 6年 3月	鉄骨その他造	243㎡
倉庫	平成 6年 3月	鉄骨その他造	50㎡
武道場	平成 7年 1月	鉄骨その他造	508㎡

5 校舎配置案



《イメージパース図》



6 児童生徒アンケート

・アンケートの実施内容

【対象】

折原小学校、鉢形小学校 … 5年生・6年生（計105人）
城南中学校 … 1年生・2年生（計 82人）

【実施期間】

令和5年10月30日（月）～11月10日（金）まで

【実施方法】

タブレット端末を活用し、Microsoft Forms により実施。

アンケート調査の実施について

学校は、国語や算数など各教科の知識を学ぶだけではなく、子どもたちが、集団の中でいろいろな考え方に触れたり、協力し合ったりすることにより、表現力や問題解決能力、社会のルールなどを学ぶ場所でもあります。

このようなことを学ぶためには、「人数の多い学校」、「人数の少ない学校」それぞれの「良い点」・「良くない点」について考えてみましょう。

「人数の少ない学校」とは、

1 学年の人数が7～15 人程度で、各学年 1 クラスの学級または、2 学年で1 クラスの学級とします。

「人数の多い学校」とは、

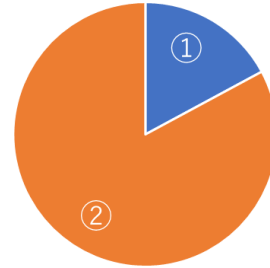
1 学年の人数が 40 人程度で、各学年 2 クラスの学級とします。

・アンケート調査の結果

小学生

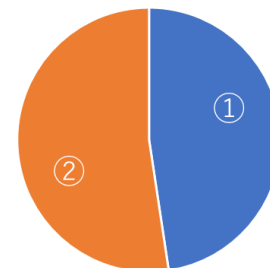
Q1 学校名を教えてください。

- ①折原小学校 18
- ②鉢形小学校 87



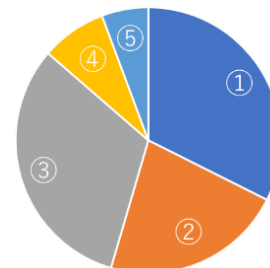
Q2 学年を教えてください。

- ①5年生 50
- ②6年生 55



Q3 あなたの考える人数の少ない学校の良い点はどんなところですか？【複数回答可】

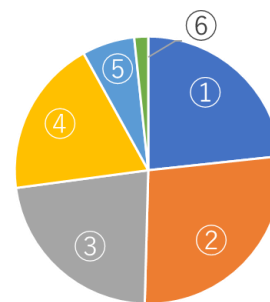
- ①意見や感想を公表できる機会が多い 57
- ②学校行事やクラス活動で、係や役割分担を務める機会が多くなる 39
- ③他学年と交流する機会が多くなる 56
- ④特になし 14
- ⑤その他 10



個別の指導ができる。先生に質問しやすい。意見をまとめやすい。
仲の良い友達と同じクラスになれる。もめ事が少ない。発表する際緊張しない 等

Q4 あなたの考える人数の少ない学校の良くない点はどんなところですか？【複数回答可】

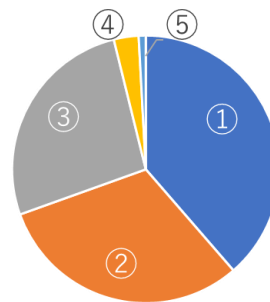
- ①クラス替えができない 55
- ②クラブ活動や委員会の種類が少ない 64
- ③体育の球技や音楽の合唱・合奏のよ
うな集団学習の人数が少ない 53
- ④班活動やグループ分けの際メンバーが
変わらない 45
- ⑤特になし 15
- ⑥その他 4



協力して行う機会が少ない。友達の数が少ない。
嫌いな人と同じクラスになってしまう。静かそう。

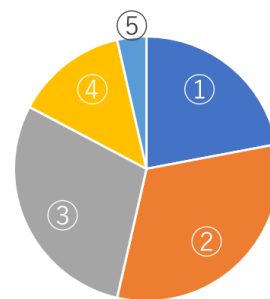
Q5 あなたの考える人数の多い学校の良い点はどんなところですか？【複数回答可】

- ① クラス替えができ、多くの友達と関わることができる 90
- ② クラブ活動や委員会の種類が多い 72
- ③ 体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習が大規模にできる 62
- ④ 特になし 7
- ⑤ その他 2
協力して行える。楽しそう。



Q6 あなたの考える人数の多い学校の良くない点はどんなところですか？【複数回答可】

- ① 学校行事やクラス活動で、係や役割分担のない場合がある 37
- ② 同じ学年でも交流が少ない友達が生まれてしまうことがある 53
- ③ 同じ学年での交流が中心となり、他学年との交流する機会が少なくなる 49
- ④ 特になし 23
- ⑤ その他 6
先生の負担が大きくなる。仲の良い友達と同じクラスになれない。もめ事が増える。等



Q7 将来、中学校に進学するとき、不安なことや心配なことはありますか？【自由記載】

主な回答内容

- ・友人関係について 23件
(小学校が違う友達と仲良くなれるか。新しい友達ができるか。いじめやけんかはないか。小学校の先生と別れるのが悲しい。上下関係があるのか)
- ・勉強関係について 14件
(勉強が難しくなりついていけるか。受験勉強が大変 等)
- ・部活動について 4件
- ・通学について 2件

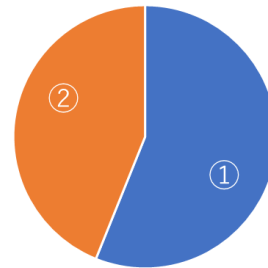
(回答結果のテキストマイニング)



中学生

Q1 学年を教えてください。

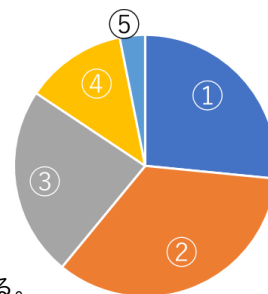
- ① 1年生 46
- ② 2年生 36



Q2 あなたの考える人数の少ない学校のメリットはどんなところですか？【複数回答可】

- ① 意見や感想を公表できる機会が多い 34
- ② 学校行事やクラス活動で、係や役割分担を務める機会が多くなる 44
- ③ 他学年と交流する機会が多くなる 30
- ④ 特になし 16
- ⑤ その他 4

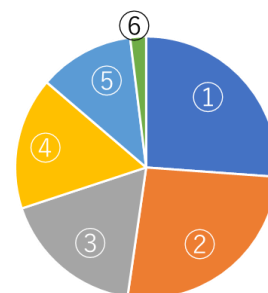
人数が少ない分多くの人と交流ができる。時間をかけて会話ができる。
友だちの名前を覚えるのに苦労しない。等



Q3 あなたの考える人数の少ない学校のデメリットはどんなところですか？【複数回答可】

- ① クラス替えができない 40
- ② クラブ活動や委員会の種類が少ない 40
- ③ 体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習の人数が少ない 27
- ④ 班活動やグループ分けの際メンバーが変わらない 25
- ⑤ 特になし 18
- ⑥ その他 3

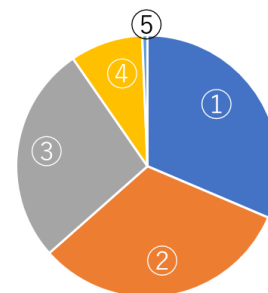
友だちの数が少ない。新たな出会いがない。給食の準備が忙しい。



Q4 あなたの考える人数の多い学校のメリットはどんなところですか？【複数回答可】

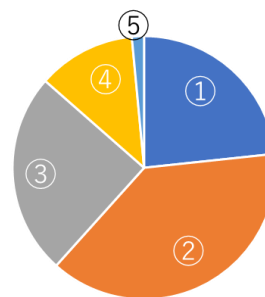
- ① クラス替えができ、多くの友達と関わる 49
- ② クラブ活動や委員会の種類が多い 50
- ③ 体育の球技や音楽の合唱・合奏のような集団学習が大規模にできる 42
- ④ 特になし 14
- ⑤ その他 1

係でやりたいものが増える。



Q6 あなたの考える人数の多い学校のデメリットはどんなところですか？【複数回答可】

- ① 学校行事やクラス活動で、係や役割分担のない場合がある 31
- ② 同じ学年でも交流が少ない友達が生まれてしまうことがある 51
- ③ 同じ学年での交流が中心となり、他学年との交流する機会が少なくなる 33
- ④ 特になし 16
- ⑤ その他 2



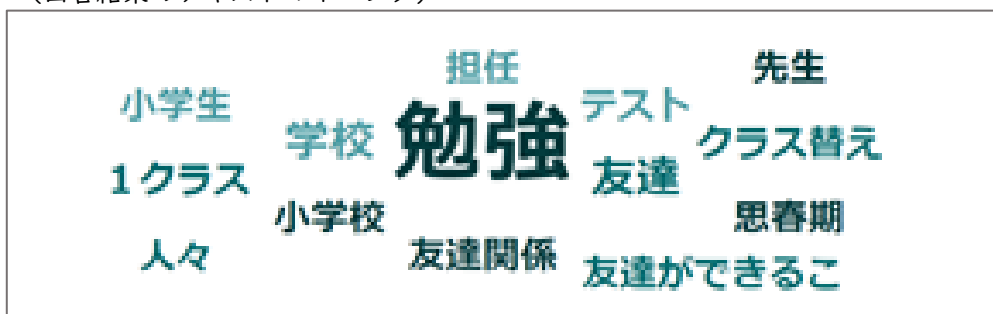
いじめやトラブルの把握が難しくなる。考える事が多くなる。

Q7 小学校から中学校に進学した時、心配だったことや困った事がありますか？【自由記載】

主な回答内容

- ・友人関係について 19件
(小学校が違う友達と仲良くなれるか。新しい友達ができるか。いじめられないか。)
- ・勉強関係について 14件 (勉強が難しくなること。テストが大変 等)
- ・クラス替えについて 3件 (クラス替えで仲良しな友達と分かれてしまう 等)
- ・生活面について 2件 (早起きができるか。思春期等の悩み)
- ・その他 3件 (担任の先生との関係。学校に馴染めるか 等)

(回答結果のテキストマイニング)



7 議会からの意見等(概要)

● 再編整備方針及び統合実施計画について

- ・目指すべきは、一貫校・一貫教育。校長1人、教頭2人体制の検討も必要。
- ・統合スケジュールはできるだけ早く。時間をかけると問題も発生する余地が残る。
- ・一貫教育の推進は、今後の教育方針を踏まえての考え方か。
- ・基本設計と実施設計、また、新校舎建設と城南中学校改修工事の同時進行。
- ・他の公共施設の統廃合の先例になることを意識しての事業実施を。
- ・新校舎と現城南中学校の(物理的な)連結。
- ・小中連携教育を実施する構想の策定。
- ・現小学校の特色を引き継いだ新たな教育課程の編成。
- ・新校舎は、現城南中学校校舎の東側に、南向きで建築。

● 通学環境について

- ・下校時間の違いを考慮したスクールバス等の運行。
- ・折原小学校の児童の安全確保のための通学路整備。
- ・保護者に送迎負担がかからない体制。
- ・障害児等への合理的配慮に基づいた環境整備・バリアフリー化。
- ・国の基準にとられないスクールバスの運行範囲の適用。

● 統合準備委員会(=委員会)について

- ・児童生徒の希望の反映(委員選出、アンケート等)。
- ・進学予定の家庭、もしくは20代OB等からの委員選出。
- ・教育委員会主導による委員会のテーマ設定や議論。
- ・各小学校の低学年と高学年の家庭から保護者代表委員の選出。
- ・各小学校の低学年と高学年のクラス担任から教職員委員の選出。

● 跡地利用について

- ・避難所機能も重要であるが、様々な角度からの検討。
- ・現状、学校開放で活用されているが、(関連団体との)協議は検討しているか。

● 教職員について

- ・教職員体制の充実(①先進地視察、研修。②小中学校教員間の交流と方向性の共有。③9年間の指導方針等の一貫性)
- ・教職員の負担を増やさないため、小中学校は別々に設置。

● その他

- ・手洗い場、靴箱等、小中学生の体格差に配慮した施設整備。
- ・統合後の新しい文化が根付くための十分な準備期間。
- ・保護者との意見交換、児童・保護者の事前の交流事業の実施。
- ・子どもたちと地域の方が交流するふれあいルームの整備。

- ・愛着を深めるため、地域の方から学ぶ教育活動の実施。
- ・9年間を一緒に過ごすことでの児童生徒の親近感の醸成。
- ・思春期入り口の小学5・6年生が先輩の姿を見ることで情緒が安定。
- ・小中学校とも同じ校歌。
- ・小中学校の合同行事の実施。
- ・校庭利用時の安全配慮。授業の時間帯の考慮。
- ・PTA活動が継続できなくなることを回避。
- ・9年間を通したインクルーシブ教育の継続性。
- ・スクールバスの活用も含め、町内小中学校のプールの共有化。
- ・放課後児童クラブ施設も城南中学校の敷地内に設置。
- ・新たな問題解決のため、統合開始後のフォロー会の定期的開催。
- ・体育館が1つで足りるのか。
- ・中学生の縦割り学習の小学校高学年までの拡大。

8 パブリックコメント制度による意見等(概要)

- 中学校は補修、小学校は2校とも建て替える。
 - ・転校を回避するため、既存の小学校も存続させる。
 - ・なお、小学校の建て替えは、少子化を考慮しそれぞれ1棟のみとする。
 - ・中学校の補修では、サッシを最新のペアガラスに交換する等で電気代を節約する。

9 町内の学校長からの意見等(概要)

- 事前交流について
 - ・各学校の組織文化、習慣に差異があるため、事前に児童、生徒、職員間の交流を図る。
- 登下校について
 - ・遠距離通学児童のために、スクールバスやタクシーを活用する。
- 施設・設備について
 - ・小学校低学年の萎縮防止のため、慣れるまでの間、校庭に移動式のフェンスでしきりを設ける。
 - ・放課後における校庭での部活動と遊ぶ児童の混在状況への対処が必要。
 - ・新校舎の立地や教室の配置によっては、小中学校のチャイムを別々のものにする。
 - ・小学校低学年が活用する遊具の配置や安全面での配慮が必要。
- 教員配置について
 - ・小学校高学年は、小中の教員免許を持った教員による教科担任制をとり、中1ギャップの軽減を図る。
 - ・小中合同行事等による業務量増加に対処するための人的配置を行う。

- ・小中一貫校として、教科指導、生徒指導を効果的に進めるため、小中の教員免許を持つ教員を確保する。

● 児童生徒について

- ・小学5・6年生が高学年でなくなり、リーダーシップ等を養う機会が減るため、学校行事で意図的に運営主体にする。
- ・年齢幅が広いため、教育相談の充実が必要。
- ・転入・転出への配慮が必要。
- ・人間関係の固定化に対する工夫が必要。